

日本語会話文における比較表現の分析

6E-3

友清睦子 鈴木雅実
(ATR自動翻訳電話研究所)

1 はじめに

単一化に基づく文法の記述は、その語に固有の意味構造および論理の表現に有効性の高い手段であるといわれている。単一化演算が単調に行われるため、入れ子形の構造の深さを問題にしなければ、こまやかな記述が平均的に可能である。本報告では、日本語対話文にあらわれる比較の概念を取り扱う。まづ比較表現のありようをATRコーパスにみ、次に意味分析、最後に音声言語日英翻訳実験システム(SL-TRANS)にむけた、HPSGによる語彙記述例を示す。

2 ATRコーパスにみる比較表現

表1はATRコーパスにあらわれる比較の概念をもつとおもわれる語列リストの一部である。

No.	日本語表現	対訳英語	頻度
1	より	more than(8) rather than (1), ϕ (2)	11
2	より~の方	rather than(1) more than (1) ϕ (3)	5
3	方	more than(1) be best (1) so(1) more (1) better(6) right(1)	13
4	以上	ϕ (4) any other(1) much	13
5	よりもむしろ~ の方 ...	more(1) any(1) be not(1)	1
6	より+adj	ϕ (2)	2

3 日本語の比較表現

3.1. 基本的な形態

基本的には、「~より」「方」「~より~の方」「一番」「ほど~ない」「同じくらい」「どちら(の方)」「以上」によって比較の概念がマークされている。

3.2. 意味

2者比較;新幹線は飛行機より安い
3者以上の比較;会場に一番近いホテルは...
程度の比較;先生の方がよくご存じです
量の比較;本数は阪急の方があります
状況の比較;マイクで呼び出すよりも直接手渡された方が良くとおもいます

4 考察点

4.1. 述部の意味

述部の意味はその語本来の意味からはなれている。

例:花子は太郎より若い

この場合花子が「若い」の意味はない。なぜなら「でも2人とも80才はくだるまい」の文をつけることができる。[1]

この現象は英語側でも同じで、次の文が成立する。[3]

従って「より」は、その文の前提条件である「比較において」を暗示し、比較の基準となるものをマークする。

4.2. 対極否定表現

例:花子は太郎より背が高い

の例文は、「太郎は花子の背丈にとどいていない」の意味を内包する。つまり表現の裏側に否定命題を含むということである。この点は日英に共通の含意であると思われるが、否定命題部分を表層に出そうとする時、問題があると思われる。

例:Hanako is taller than Tarou. の対極否定は Tarou isn't taller than Hanako. となるが、日本語では「太郎は花子より背が高くない」は非文に近いだろう。また「~ほど~ない」で表現される否定形は、同義ではなく「太郎は花子ほど背が高くない」は、花子が一般より背が高いことを前提としている。したがって、否定命題を含むことは日英両側について言えるが、表層の形は対応的ではないということである。

John is taller than Mary.

John is not taller than Mary. («~のではない」)

John is no taller than Mary. («ほど~ない」)

John is as tall as Mary. ((equally or more)含意として2人とも背が高い)

Investigation of comparative forms in Japanese Spoken Dialogue

Mutsuko Tomokiyo, ATR Interpreting Telephony Research Laboratories

Masami Suzuki, ATR Interpreting Telephony Research Laboratories

John is not as taller as Mary. (X<Y 「おなじ〜ではない」)

John is not so taller as Mary. (「ほど〜ない」)

He looks no older than thirty-five. (「せいぜい〜ぐらい」「全く〜でない」)

4.3. 「以上」「以下」「未満」のさす数

以上や以下などを含む実数量については、以下のとおりであり、変換の問題となる。

例:15名以上(15 \leq)

15名以下(15 \geq)

15才未満(14 \geq)

as~as(J \geq M)

not so~as(J<M but we can know John is tall.)

more than(J>M)

no more than (J \leq M)

not more than (J<M)

4.4. 「以上(以下)(から)~まで」の範囲の表現

例:25才以上35才までの人

5名以上10名まで

10から100まで

people between the ages of 25 and 35

from 5 persons to 10

from 10 to 100

従って、類別辞が何であるかを明示的にしめす必要がある。

4.5. イディオム的なもの

例:これ以上:これ以上議論してもむだだ
もうこれ以上働けない

それ以上:それ以上は言わないで下さい

予想以上に:試験は予想以上に難しかった

It's no use arguing any father.

I can't work any longer.

Don't say any father, please

The exam was much harder than I had expected

従って「これ(それ)以上」の訳語選択には動詞や形容詞などの意味分類が必要となる。

4.6. 「方がいい」などのイディオムの語列

の方がいい/の方がよかった/動詞+方がいい

例:急ぐ方がいい

we had better hurry up. (このbetterにも比較の概念はない)

従って、「方がいい」の語列では比較の概念よりむしろ軽い忠告・勧告のニュアンスがあると思われる。

4.7. 「方」がうける内容節の「タ」形/「ル」形

例:早く帰った方ががいい/早く帰る方ががいい/はやく帰らない方ががいい

「ル」形と「タ」形の差は、「ル」形の立言内容

の方により一般性があるといわれる。「タ」形は状況に依存的であるから、「ル」形よりは、「できるだけ」「できれば」「なるべく」などをもないやすい。「た」の意味記述は複雑なものとなるだろう。

5 記述事項

4の考察から意味構造の記述として、「より」の場合、少なくとも以下の項が必要である。

比較するもの

比較の基準となるもの

判断事項:量 程度 状況

語彙記述例

(より)

```
<!sem > == (:LIST [[parm ?0x[]
                    [restr [[reln より-criteria]
                             [arg-1 ?sem]]]])
<!prag comparative-terms > == (:LIST [[focus ?vsem]
                                         [criteria ?sem]
                                         [choice 方choice]])
```

(以上)

```
<!sem > == ([[parm ?0x[]
              [restr [[reln 数の境界表現]
                       [arg-1 ?sem]]]
              [entity ?0x[]]])
<!prag frontierofNUM-terms > == ([[mode ijyou]
                                     [classification ?class-num]
                                     [reelquant ?sem $\leq$ ]])
```

6 むすび

比較表現は、それを指示するマーカに多様性があり品詞としては、格助詞、形式名詞、接辞、副詞などがある。また語彙としてのマーカをもたないが比較の概念をもつとおもわれるものがあり、今後の課題である。

謝辞 この研究を行なう機会を与えて下さったATR自動翻訳電話研究所の樽松社長をはじめ、調査に協力して頂いた方々に感謝いたします。

参考文献

1. 形容詞比較級の成立条件について(HAMAMOTO, H, '90, 日本語学会ハンドアウト)
2. 程度表現と比較表現(YAGI, T, '87, 大修館書店)
3. 否定の意味(OOTA, A, '83, 大修館書店)
4. 談話理解モデルとその応用(YOSIMOTO, K, '89, ATRSYMPOSIUM)
5. SL-TRANSにおける日本語文法の概要(NAGATA, M, '90, TR-1-00156)
6. Practical English Usage (Oxford, '85)
7. 基礎日本語(MORITA, Y, '80, 角川書店)
8. Semantique descriptive (Lerat, P, '83, Hachette)
9. 日本語学(vol.5, '86, 明治書院)